

核となる体験学習の実際【第4学年の実践】

1 テーマ「日向ブランドのひみつをさぐれ！」(日向市の産業～日向市の特産物調べ～)

2 目標

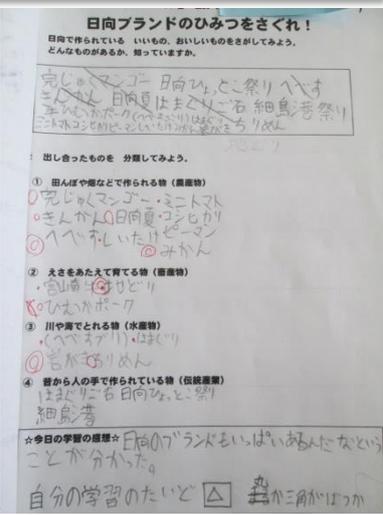
- 日向市の特産物を調べる活動をとおして、地域素材を生かしふるさとを活性化させようとしている人々の生産の努力や工夫に気付くことができる。
- 調べたことをまとめ、伝える活動をとおして、ふるさとのよさを感じ、ふるさとを愛する心をもつことができる。

3 第4学年で目指す基礎的・汎用的能力を身に付けた児童の姿

人間関係形成・社会的能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
友達のよいところを認め、がんばりを励まし合い、過ちを許し合うことができる。	してよいことと、悪いことを正しく判断し、行動することができる。	自分の行動に責任を感じて、最後までやり通そうとすることができる。	憧れとする職業を持ち、今やるべきことを考えることができる。

4 活動の実際



学習内容及び活動	
<p>1 オリエンテーション①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日向ブランドを探そう。 「日向でできる有名な物を発表しよう。」 <p>◎児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日向には、おいしいものがたくさん作られているな。 ・どんな風につくられているのかな。 <p>2 オリエンテーション①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を決めよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日向ブランドの秘密を探ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を集めよう。 <ul style="list-style-type: none"> ①農産物（マンゴー・ヘベス・塩見みかん） ②畜産物（日向地鶏） ③水産物（岩ガキ・美々津ちりめん） ④伝統産業（蛤碁石） ○ 自分の課題を決めよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ①～④から自分が調べたい課題を決める。 ・ 同じ課題の児童でグループを作る。 ○ 課題（秘密）を見つけよう。（何を調べるか考える。） ＜秘密①＞生産地について 	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ヘベス、日向夏、はまぐり碁石、備長炭、ひよっこ、細島港、しまあじ、富島幹線用水路、マンゴー、しいたけ、牧水カルタ、冷やじる、日向ポーク、宮崎牛、地鶏…</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ どこで作られているのかな ○ いつから作られているのかな ○ 作り方を知りたいな ○ 作っている人にあってみたいな </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div>

- <秘密②>特産物になるまでの歴史について
- <秘密③>作り方・仕事の流れ・工夫について
- <秘密④>作るための努力や苦労について
- <秘密⑤>仕事をしている人の思いや願いについて
- <秘密⑥>日向の子どもたちに伝えたいこと

3 日向ブランドの秘密を探る。

○ 日向ブランドをグループで調べよう。②

- ・インターネットやパンフレットなどを使って調べる。
- ・分からなかった点をまとめて、質問を整理する。

- ・図書室にいてみようかな。
- ・分からない言葉は何で調べたらいいかな。
- ・パンフレットはどこで手に入ればいいのかな。
- ・近所に日向ブランドについて知っている人はいないかな。

◎児童の反応

- ・図書ボランティア方に集めていただいたパンフレット等を読み、情報を得るとともに、日向市がPRに努めていることを知った。
- ・自分の身近な方から生産者を探し、週末などに話を聞きに行く児童も見られた。
- ・資料では、見つけられなかった事がインターネットを使うことで、多くの情報をえることができた。

○ 日向ブランドについて、グループに分かれて外部講師の話を聞き、質問やインタビューをす。

◇外部講師

- ・赤木利光氏（赤木基石製造所代表）
- ・黒木和之氏（へべす生産農家）
- ・細川豪邦氏（JA 日向地頭鶏部会）
- ・黒木伸介氏（日向市林業水産課）
- ・山本孝志氏（マンゴー生産農家）
- ・児玉慶太氏（細島岩ガキ生産者部会）
- ・濱地貴志氏（日向市産業経済部
ブランド推進課）

<講義内容>

- ・作り方・仕事の流れ・工夫について
- ・作るための努力や苦労について
- ・仕事をしている人の思いや願いについて
- ・日向の子どもたちに伝えたいこと

○日向市キャリア教育支援センターと日向市役所林業水産課に相談し、講師を紹介いただいた。

紹介いただいてから電話挨拶、文書案内、授業直前の学習の流れと内容確認と連絡を密に取った。

限られた時間内だったが、熱心に話を聞いたり、質問したりする姿が見られた。

講師の方々も実物や資料で分かりやすく話をしてくださった。



4 調べたことなどを発表資料にまとめ、発表の準備をしよう。

＜まとめの観点＞

＜秘密①＞生産地について

＜秘密②＞特産物になるまでの歴史について

＜秘密③＞作り方・仕事の流れ・工夫について

＜秘密④＞作るための努力や苦労について

＜秘密⑤＞仕事をしている人の思いや願いについて

＜秘密⑥＞日向の子どもたちに伝えたいこと

5 講師の先生方を招待して研究発表会をする。①

6 これまでの学習を振り返る。①



5 成果と課題

(ア) 成果

- 「日向ブランド」の生産物に目を向けることで、地元（郷土）に関心をもたせることができた。
- 休日などグループの児童で知り合いの生産者にインタビューに行くなど、自らの足で情報を集め、学習しようとする児童も見られた。
- 実際に現場で働いている方へインタビューができたので、児童がより関心を持って取り組み、理解を深めることができ、多くの質問をすることができた。
- 今年はインタビューを4年教室で行った。3教室に分かれたことで、他のグループのインタビューに気を取られず、話しが聞きやすかった。
- 児童の学習プリントの書き込みをみると、図や表などから大事なことを読み取り書かれていることが分かり、充実した学習にすることができた。
- グループ学習を取り入れることで、話し合い活動において活発な意見が出たり、一人一人が目的を持って活動を進めることが出来た。
- 休日等に図書館に行くことを進めたことで、家族ぐるみで日向ブランドに興味を持ってくださった家庭もあった。また、実際に岩ガキを調べるために細島港に出かけ、会長さんなどに直接話を聞いた家庭もあり、授業後に保護者からの感想等も寄せられ、広がりのある学習になった。
- 日向ブランド農産物については、キャリアセンターよりも、人材をよく把握している市役所の林業水産課や産業推進課ブランド推進室に相談した方が講師を確保しやすく、打ち合わせがスムーズに進んだ。

(イ) 課題

- 生産者から話を聞く時間が1時間と短く、「もっと聞きたい」という声も児童から上がった。
- 日向ブランドに関する「パンフレット」等を継続して収集し、ストックしておく必要がある。現在は4年生担当教諭が中心として収集しているが、児童が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングを進めていく上では、児童が利用する為の「資料」をたくさん集め整理、分類、保存しておく必要がある。やはり図書専門の司書を置き、各学年で使用する資料などを収集管理する必要性を感じる。
- インターネットでの資料集めが必要となるが、パソコンの使い方に個人差がある。
- 児童が興味・関心のあるものを意欲的に調べるための教師の手立て（授業の導入等）が難しいと感じた。
- 調べた日向ブランドについて、外部に発信できる機会が作れるとよい。